



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第45巻第
5号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第45巻第5号). 泌尿器科紀要 1999, 45(5): 384-384

ISSUE DATE:

1999-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/114032>

RIGHT:

4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
6. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,500円、英文は6,500円、超過頁は1頁につき7,000円、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円、6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
7. 別冊：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編 集 後 記

大井好忠先生が逝去された。1998年の日本泌尿器科学会総会を鹿児島で主催されたときは、食道癌の術後で放射線治療を受けられた直後であったが、病苦を押して立派に会長を務められた。そのひたむきな姿勢には、事情を知っている者として、本当に頭の下がる思いがした。その後小康を得られ、二、三回お会いした時も、「ご心配をお掛けしていますが、元気でやっておりますよ」と努めて明るく云っておられた。

大井先生は小生とは年齢も卒業もほぼ同じであるが、共に泌尿器科医であることの喜び、誇り、さらに世の泌尿器科にたいする偏見などについて熱っぽく語り合ったものである。鹿児島という地は、一本節金の通った、古武士然とした人物を輩出する所であるが、大井先生もその一人であった。同時に先生は人情味溢れる、温かい心の持ち主であった。先生の温容を思い浮かべ、胸に熱いものを覚えつつ、改めてご冥福をお祈りする次第である。

本号には先生の最終講義を掲載することができた。鹿児島大学泌尿器科学教室の関係者各位のご協力にお礼申しあげたい。

(吉田 修)

大井好忠先生は1999年4月7日に逝去されました。先生におかれましては、1990年以来今日まで泌尿器科紀要 Editorial Board の一員として本誌の発展に多大なご尽力をいただきました。改めて先生のご厚情に深謝致しますとともにご冥福をお祈り申し上げます

(泌尿器科紀要編集部)